銀の山を間歩する

－世界遺産石見銀山遺跡と大森町における宿泊施設の提案－

Keywords
世界遺産　まちづくり　観光
宿泊　自然との共生　伝統文化

DZ19180　姜　婷格

1.　1. 研究背景

1.1　世界遺産について

世界遺産条約は1972年UNESCO総会にて採択され、自然環境や文化財を、私たちが受け継ぎ、確実に次の世代へと残していくためにある。

1978年に最初の世界遺産が登録され、今では1154件となる。

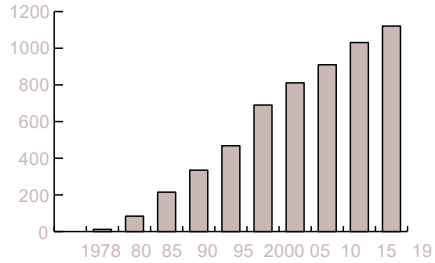


図1　世界遺産数の推移(Illustratorより作成)

1.2　世界遺産が抱える諸問題

世界遺産の登録数が年々増える一方で、以下の諸問題が生じている。

危機遺産の登録、観光地化したまちづくり、バッファーゾーンにより停滞した都市開発、観光客の減少による地域過疎化や無居住化、伝統文化の消失が挙げられる。

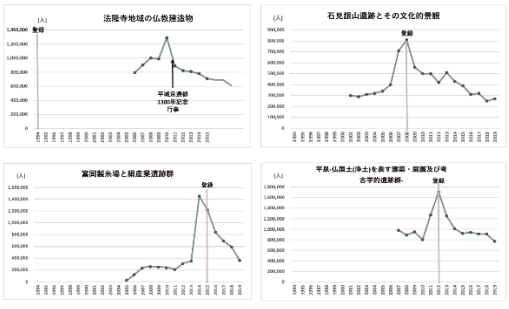


図2　世界遺産来訪者数推移(Illustratorより作成)

1.3　石見銀山遺跡とその文化的景観

日本の世界遺産は現在25件登録されており、その中で、私は島根県大田市に位置する石見銀山とその文化的景観について卒業研究を行う。

遺産の登録理由は以下の三つである。

①　世界的な経済と文化の交流を生み出した。

②　銀の生産工程が全部人力かつ手作業で、その技術を示す史跡も豊富に残っている。

③　銀の積出港や街道など鉱山運営の全体像が自然環境と一体となった文化的景観である。

遺産の一部である大森町は江戸時代幕府が直轄した石見銀山領の政治経済の中心地であった。現在は昔の面影を残しつつ、独自の暮らしが営まれている。しかし、遺産登録をきっかけにまちづくりは進む一方、世間の石見銀山に対する認知度は未だに低く、観光者数も年々減っている

2.　研究目的

従来の世界遺産の保存は遺産に触れず、周辺の開発を通して観光を促進させる。私は歴史とかつての銀山の姿を彷彿させるような手法を通し、石見銀山遺跡とその文化的景観の魅力を知ってもらい、より多くの人に訪れてもらえる建築空間を通し、世界遺産の持続的な保存、その暮らしと伝統文化の継承、自然との共生を目指す。

3.　対象地区

3.1　石見銀山と大森町の概要

石見銀山遺跡とその文化的景観は、平成19年7月に世界文化遺産に登録された。遺産の面積は529.17ha、「銀鉱山」、「大森街並み」、「港と港町」、「街道・山城」の4つのエリアに分類され、14の資産から構成される。

その中で、現鉱山へつながる大森町は江戸時代20万人と言われていたが、1923年の休山により昭和初めには1800人ほどに激減した。今の人口は400人ほど、高齢化率40.36である。また、1987年に重要伝統的建築物保存地区に選定された。

写真1　仙ノ山から望む大森町

研究指導：山代　悟 教授　　Teikaku JAN

3.2　観光の現状

3.3　宿泊現状

現在利用できる銀山大森地区の宿泊施設は二つあり、暮らす宿他郷阿部家は2室、定員10名、石見銀山の宿ゆずりは6室、定員12名。どちらも古民家改修によってできたため、地域としての収容定員が少ない。

4. 問題提起

敷地調査を通し、私は以下の課題に気づいた。

一つ目は、石見銀山へのアクセスは非常に不便であり、その上、遺産が分散しているため、大森銀山地区を観光するだけでも丸二日間はかかること。しかし、宿泊施設が少ないため、のんびりまわることが難しい。

二つ目は、石見銀山遺跡構成要素の一つである間歩（鉱石を掘るための坑道）は600か所あるが、その中の一つのほんの一部のみ公開されているため、その全貌と歴史を知ることも難しいと感じた。

この二つの課題は来訪者を限定させてしまい、観光者数の減少と遺産の認知度の低下を招き、まちづくりの停滞、伝統文化の消失、遺産認知度の低下、地域過疎化につながると考えられる。

また、石見銀山遺跡とその文化的景観は、歴史を伝える文化財そのものの魅力だけではなく、次世代へ語り継いでいきたい、自然と共生する景観や暮らし方があり、継承する必要があるのではないか。

5. 提案と仮説

5.1　提案

宿泊中心の複合施設の設計を提案し、世界遺産のおける観光促進、地域活性化を促し、自然との共生が実現する空間にする。

敷地は大森街並み、世界遺産センター、銀鉱山へ続く道の交点の山に選定し、仙ノ山を望む。

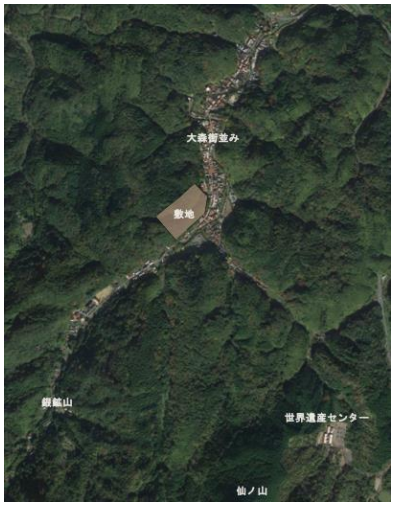


写真2　敷地

利用者は地域の人々、短期宿泊、長期宿泊、企業研修や校外学習、サテライトオフィスの利用を対象に、六つの棟で構成し、間歩空間と屋外デッキで巡ることができる。

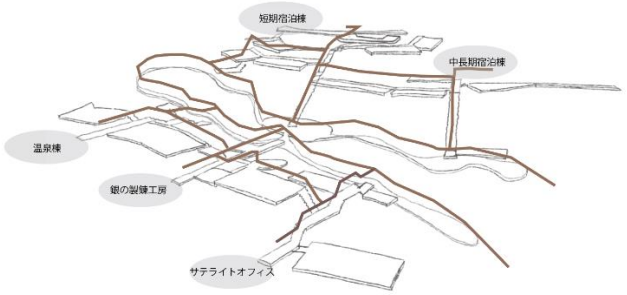


図3　動線計画

5.2　プログラム①空間の抽出

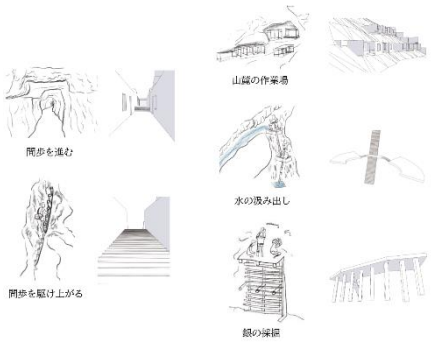


図4　空間の抽出

図1に示すダイアグラムにあるよう、石見銀山遺跡の構成要素と作業過程の一部を建築空間へ置き換え、遺跡や歴史の断片を呼び起こす。来訪者は体験しながら学び、魅力を知ることができる。

5.3　プログラム②視線のレベル差

図5　山と空間の関係性

山に完全に埋まる空間、一部埋まる空間、山より浮かせる空間を利用し、視線の高さをずらし、山との一体感を実現し、共生する。

参考文献

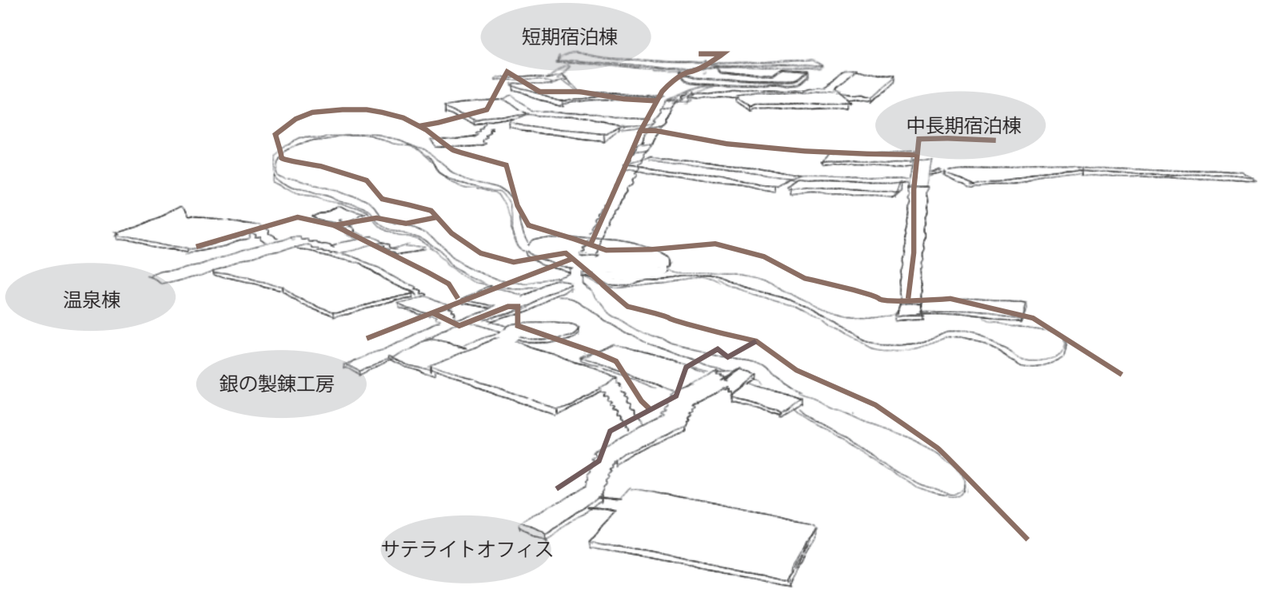
1)世界遺産に関する基礎データ集
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/isanbukai/sekaiisanbukai_nittei/4_02/pdf/92581401_11.pdf

2) 我が国における世界文化遺産を取り巻く現状と課題
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/isanbukai/sekasanbukai_nittei/4_02/pdf/92581401_04.pdf

3) 石見銀山世界遺産センター
https://ginzan.city.oda.lg.jp/highlights/walking_map/

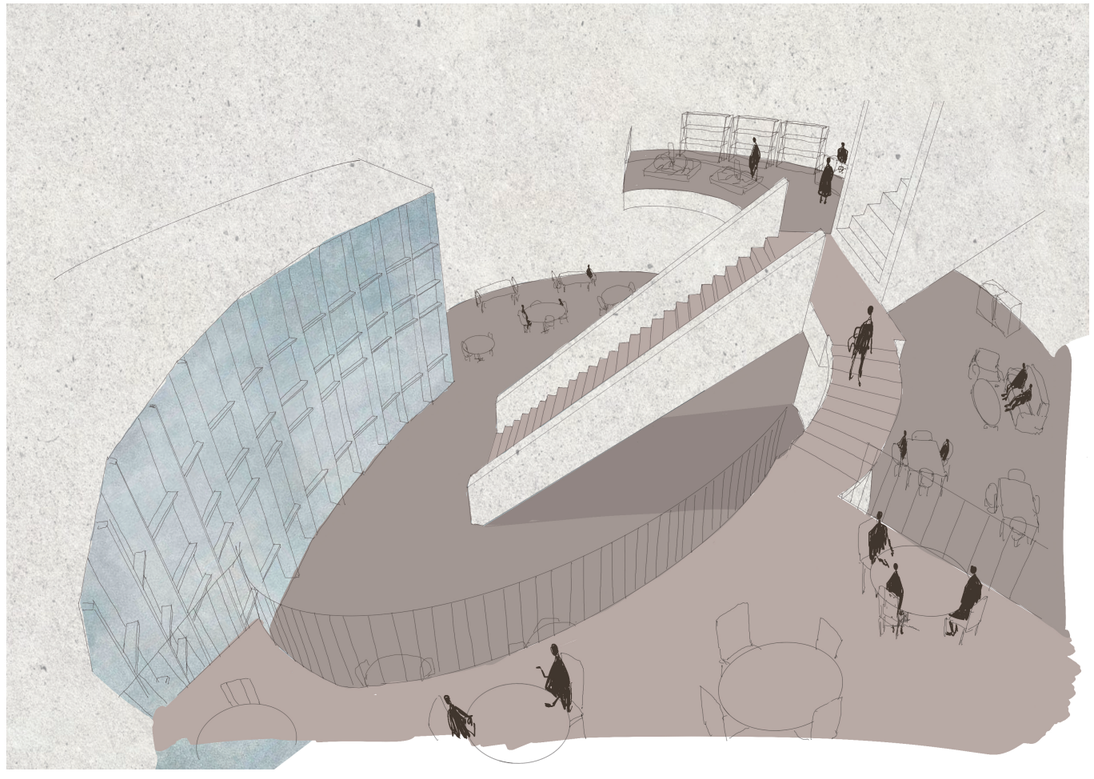
5) 世界遺産と地域再生 / 毛利 和雄

6) 過疎再生奇跡を起こすまちづくり / 松場登美



動線模式図

全体入口パース



レストラン内観パース

間歩空間入口パース